

令和2年度 学校評価報告

草加市立小山小学校
(令和3年2月1日作成)

1 学校教育目標	
○進んで学ぶ子：基礎基本の定着、語彙の獲得・語彙力の育成、書く力・聞く力(対話力)の育成 ○思いやりのある子：道徳的実践力の育成、社会貢献意識の醸成、自他・自然を大切にすることを培う ○体をきたえる子：運動の習慣化、危険予測・回避能力の育成、健康・安全意識を培う ○ねばり強い子：継続する力の育成、協働する意欲の醸成、対話する力の育成、レジリエンスの育成	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
◇学年・学級経営の充実 ◇学習指導の充実 ◇道徳・人権教育の推進 ◇子どもを取り巻く環境全体の連携推進 ◇生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実	成果○基礎的、基本的な知識・技能の定着 ○生徒指導・教育相談の充実 課題●学力向上及び自己効力感を育成する教育の充実 ●生徒指導・教育相談の一層の充実

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動に関する保護者アンケートでは、「できている」とする評価が7項目中5項目で90%を超えた。 ○校務分掌を活かして、工夫しながら組織的に諸活動に取り組めた。 ○予算執行状況の定期的な確認及び各主任との連携により、適切に執行することができた。 ●円滑な組織運営にむけ、校務分掌体制の工夫を図る。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画、実施 校内研修の推進 授業改善への取組 校外研修会への参加 人材育成 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「自己の生き方についての考えを深め よりよく生きようとする児童の育成」をテーマに、特別の教科授業を中心に研究を進め、児童の自己効力感の育成が図られた。 ○学力調査結果を踏まえつつ児童の実態を分析し、対策の共通理解が図られた。 ●考え、議論する道徳を中心に校内研修のさらなる充実を図る。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 保健計画、安全計画 環境衛生の管理 健康観察、安全点検 緊急事態発生時の対応 危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各通知に沿い、共通理解を図りながら、新型コロナウイルス感染対策の徹底が図られた。 ○教育活動に関する保護者アンケートでは、健康・安全の項目で「できている」とする評価が99%だった。 ○保健安全計画に基づき、教育、管理、点検等を徹底することができた。 ●健康・安全に関する取組の徹底を継続させる。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理、保護 施設設備の管理と有効利用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○個人情報管理規定に基づき、個人情報の適正な管理ができた。 ○日常・定期的安全点検を実践し、課題箇所に対する迅速な修繕が図られ、安全・安心な施設管理が図られた。 ●校務支援システムの効果的な活用を推進し、適正な個人情報管理の徹底を継続する。
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○臨時休業期間を含め、連絡メール、ホームページ、各種たより、授業参観を通して教育活動の情報発信が適切に行えた。 ○学校運営協議会やPTA本部との連携に努め、学校教育の質の向上を図ることができた。 ●保護者、地域との連携をより一層深め、引き続き、安心・安全な学校づくりを推進する。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○目指す子ども像の実現に向け、園児の小学校見学や児童の中学校見学、小中教員の相互授業参観など、コロナ禍においても可能な限りの取組を実施することができた。 ●幼保小中を一貫した教育を推進し、連続性のある学びの実現と、児童の新しい環境へのスムーズな適応を推進する。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	① 教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○教育課程の進捗状況を定期的に確認し、臨時休業への対応も含め、教育課程の適切な実施に努めた。 ○指導法の工夫改善を適宜行い、児童の実態に即した学習活動を実施することができた。 ●授業時数、学習内容ともに適切な教育課程の実施を継続する。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童アンケートでは、「授業は楽しい」の項目で91%、「授業は分かりやすい」の項目で93%が「そう思う」と回答し、わかる授業が実現できている。 ○「草加っ子の学びを支える授業の5ヶ条」に基づいた授業を全学級で実施した。 ●ICT等の教育機器の効果的な活用を推進する。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○本気で本音を話し合う授業や、物事を多面的・多角的に考える学習を実践したことにより、他教科でも自分の考えを自分の言葉で伝えられる児童が増えた。 ○「考えたことを自由に書く」という振り返りを毎時間取り入れたことにより、児童の考えが深まり、考えや思いを文章で表現できる児童が増えた。 ●考え、議論する道徳の一層の充実を努める。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・各教科、道徳教育との関連 ・中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語活動室の環境を整備し、ICT機器を活用した効果的な学習を行うことで、児童の学習意欲を高めることができた。 ○ALTとの共通理解を深め、外国語活動及び外国語の学習を効果的に実施した。 ●教職員の一層の指導力の向上を図る。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・児童会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学級活動や委員会活動で、児童一人ひとりに活躍する場があり、児童が責任をもって活動に取り組むことができた。 ●全児童に居場所のある学級経営を一層推進する。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用した学習や、教科横断的な学習など、創意ある授業実践を展開することができた。 ●児童の興味・関心に応じた学習や体験的な学習、ICTを活用した授業を一層推進する。

⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 	A	<p>○生徒指導・教育相談委員会、いじめ対策委員会を定期的に開催し、情報共有及び指導内容の共通理解を図ることで、適時性をもった指導を行うことができた。</p> <p>○学校生活アンケートや「ハートの日」の取組により、児童理解に努めるとともに、教育相談・個人面談を通して保護者との連携に努めた。</p> <p>●組織的な指導体制に基づく指導方法についての共通理解・共通行動の徹底を図る。</p>
⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化 	B	<p>○各教科等におけるキャリア教育の視点を明確にし、全教育活動において身の回りの仕事や環境への関心を高めることができた。</p> <p>○キャリアパスポート「わたしの志ノート」を活用し、家庭との連携を図った。</p> <p>●勤労を重んじる態度、将来への夢や希望の獲得にむけた教育を一層推進する。</p>
⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	B	<p>○児童理解研修会や教育支援室巡回相談の活用により、配慮が必要な児童の指導について、共通理解を図ることができた。</p> <p>○個に応じた交流及び共同学習を取り入れることで、学びの機会を増やすことができた。</p> <p>●一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の充実に努める。</p>
⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	A	<p>○学校図書館の環境整備、ビブリオバトルに関する取組等により、多くの児童が図書に親しみ、昨年度よりも学校図書館の貸し出し冊数が増えた。</p> <p>●読書習慣の一層の定着を図る。</p>
⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	B	<p>○校内研修を充実させ、プログラミング教育の実践を推進した。</p> <p>○家庭向けに「スマートフォン等の利用に関するお願い」を配付し、家庭・地域と連携した情報モラル教育を推進した。</p> <p>●児童の情報モラルに関する理解と意識の向上を図る。</p>
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	B	<p>○全体計画及び年間指導計画を策定し、組織的・計画的に人権教育に取り組んだ。</p> <p>○人権教育月間では、全学年でDVDを活用した授業を実施し、人権に関する意識を高めることができた。</p> <p>●「人権感覚育成プログラム第2集」を用いた学習などの参加体験型学習の充実を図る。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	①学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが分かる授業実践 家庭との連携 各種学力学習状況調査結果の向上 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○児童アンケートでは、「授業は楽しい」の項目で91%、「授業は分かりやすい」の項目で93%が「そう思う」と回答し、わかる授業が実現できている。 ○自主学習ノートを推進し、意欲的に取り組んでいるノートを紹介することで児童の意欲を高めた。 ○県学力・学習状況調査では、概ね7割の児童が学力を伸ばすことができた。 ●児童の実態に応じた指導を一層充実させ、学力の伸びを継続させる。
	②規律ある態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ、返事、靴そろえ、チャイム着席、黙働清掃、正しい姿勢の徹底 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○職員の共通理解のもと指導の徹底が図られた。 ○児童アンケートでは「進んで挨拶をしている」について、8割以上の児童が「している」と回答した。 ●家庭との連携を深めながら継続指導を行う。
	③体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に運動する授業の実践 体育的活動の充実 体育に関する研修の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して、体育授業で縄跳びに取り組むとともに、「草加市なわとびチャレンジ2020」の機会も活用し、児童の意欲を高めることで体力の向上を図った。 ●新型コロナウイルスの感染対策を徹底し、児童の健康管理に留意しながら、体力向上を図る。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

学校教育目標の具現化を目指し、また、新型コロナウイルス感染対策を常に念頭に置き、全教職員による協働意識のもと教育活動を展開した。

その成果として、保護者による学校教育アンケートで「健康や安全を配慮している」99%、「基礎学力が身につく授業が行われている」96%、「困ったときに相談しやすい学校である」92%、また、児童アンケートで「学校生活は楽しい」95%、「授業は楽しい」91%、「授業は分かりやすい」93%、「困ったときに相談できる先生や友だちがいる」92%、と高い割合で肯定的な回答を得た。学校関係者評価でも、「コロナ禍で例年と異なる環境の中で、しっかり対応している」等の評価を得た。

今後も、新型コロナウイルス感染対策を徹底しながら、学力向上及び自己効力感を育成する教育の充実に向けて、指導方法や指導体制、評価の工夫改善に努めていく。

6 次年度の改善策

○学力の向上

- ・ICTの一層の活用を図りつつ、主体的・対話的で深い学びの着実な実践を図る。
- ・学習習慣を確立させ、基礎基本の定着を図る。

○生徒指導・教育相談の充実

- ・SNSとの適切な関わり方について、外部機関とも連携し、家庭との共通理解を深める。
- ・関係機関との連携など組織的な対応に努め、いじめの未然防止・早期対応の徹底を図る。

○幼保小中を一貫した教育の推進

- ・校種間における相互理解の促進並びに、各取組の発展・継続を図る。